

富田林市都市計画マスタープラン

(現況と課題)

目 次

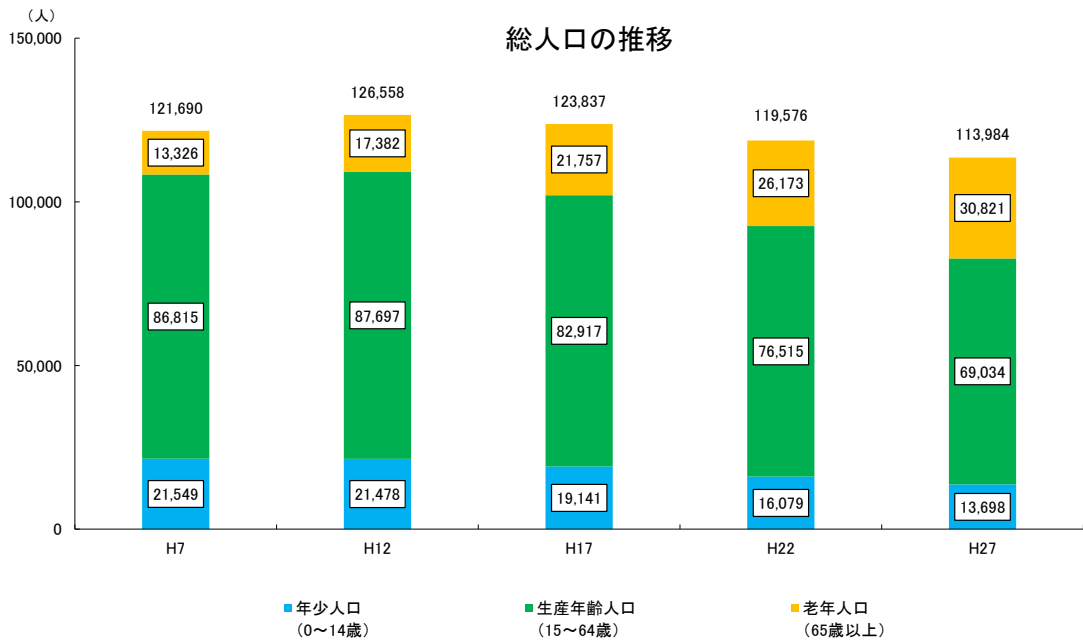
I	市の現況	1
1.	人口	1
2.	産業	5
3.	土地利用	7
4.	都市施設	10
II	都市づくりの課題（案）	13

I 市の現況

1. 人口

1) 人口の推移

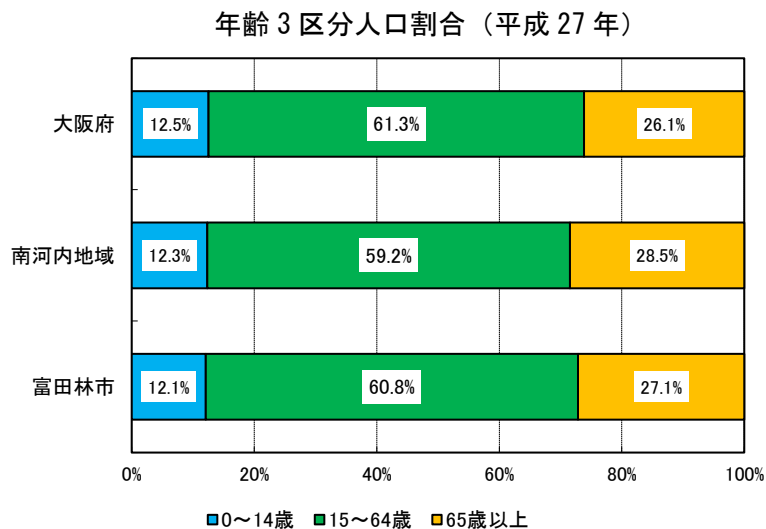
- 本市は、大都市近郊の住宅都市として人口流入が続いてきましたが、近年は減少傾向にあります。（住民基本台帳によると、本市の人口のピークは平成14年）



注：総人口は年齢不詳を含んだ数値
資料：国勢調査（総務省）

2) 年齢3区分人口の推移

- 年齢3区分別人口の比率は下図の通りで、本市は府平均に比べて65歳以上が占める高齢化率が若干高くなっています。

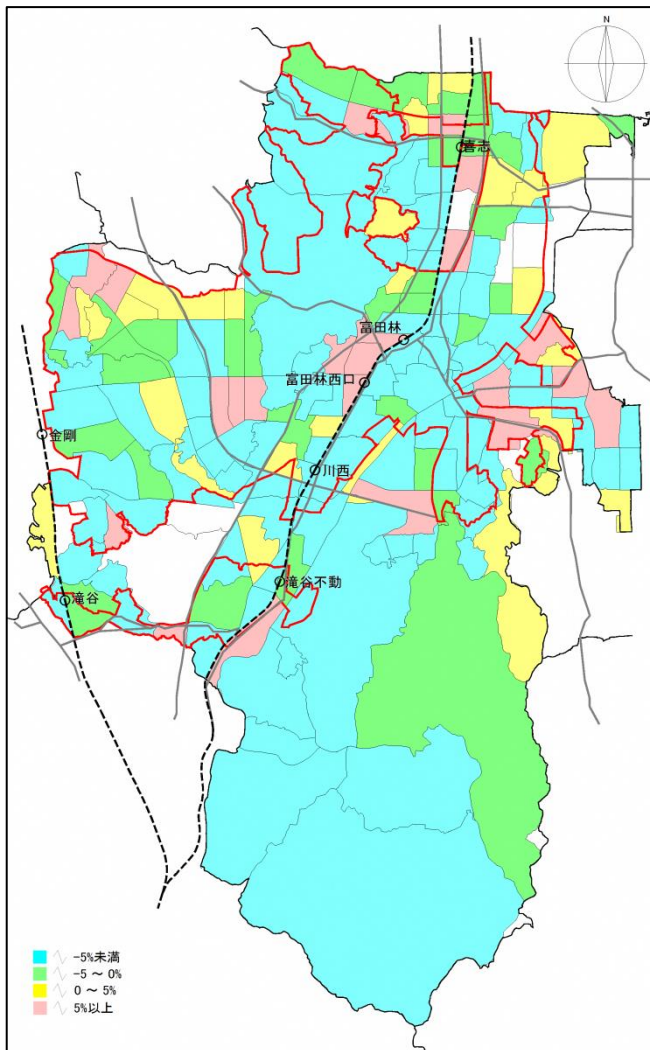


注：年齢不詳を除く割合
資料：国勢調査（総務省）

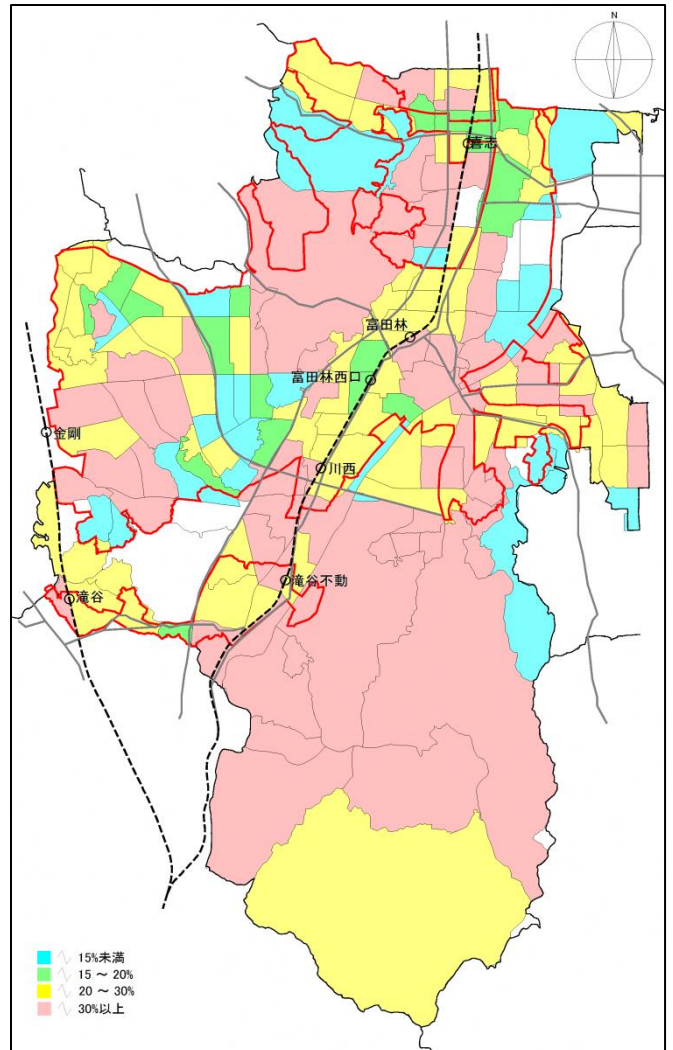
3) 地区別（小地域別）人口

- 国勢調査の集計単位である小地域別の人口増減率を見ると、平成 22 年から 27 年にかけて、市内の多くの地区で人口が減少しています。
- 一方で、喜志駅、富田林駅、富田林西口駅周辺や金剛東の一部等では人口増加地区が見られます。
- 同様に、地区別の高齢化率（65 歳以上人口の占める割合）を見ると、高辺台や寺池台等の金剛地区や、富田林駅の東側地域などで高齢化率の高い地区が目立ちます。

人口増減率 (H22→H27)



高齢化率 (H27)

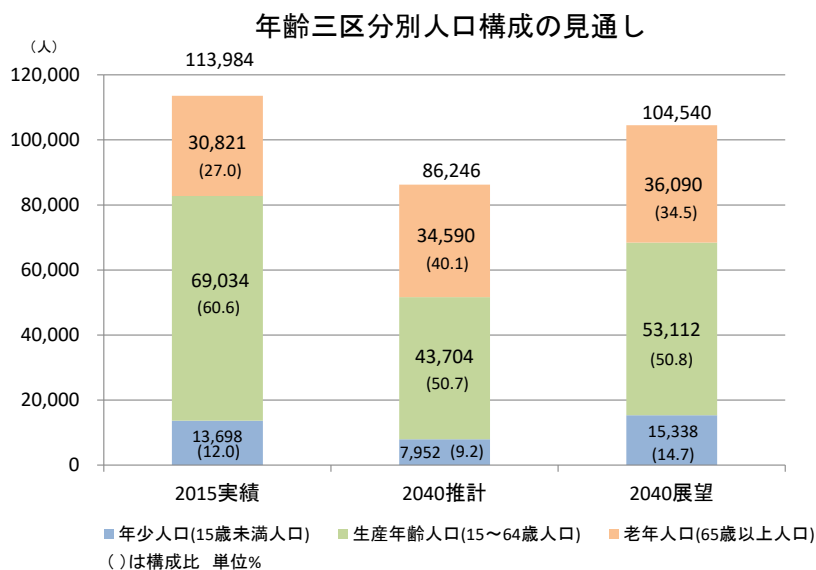
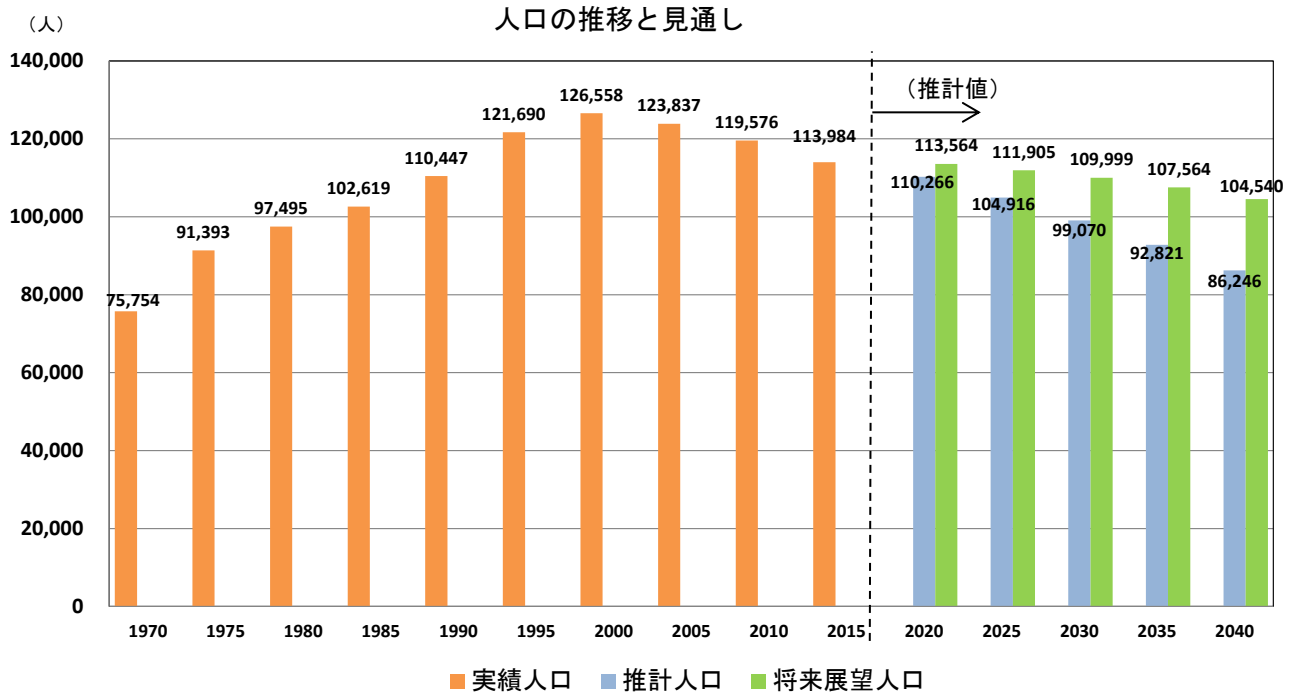


注：無着色の地域は、秘匿データが含まれていることによる
資料：国勢調査（総務省）

4) 将来人口の見通し

(1) 総人口の将来見通し

- 本市は既に、年 1,000 人ペースで人口が減少しており、このまま人口減少が進むと、2040 年には推計人口で約 86,200 人、将来展望人口でも約 104,500 人にまで減少することが見込まれています。
- 高齢化率は増加を続け、2040 年には推計人口で約 40%、将来展望人口で約 35%と見込まれています。



注：総人口は年齢不詳を含んだ数値

- 推計人口：富田林市人口ビジョンにおける推計人口
- 将来展望人口：富田林市人口ビジョンにおいて、合計特殊出生率の回復と社会移動の均衡を仮定した場合のシミュレーション人口

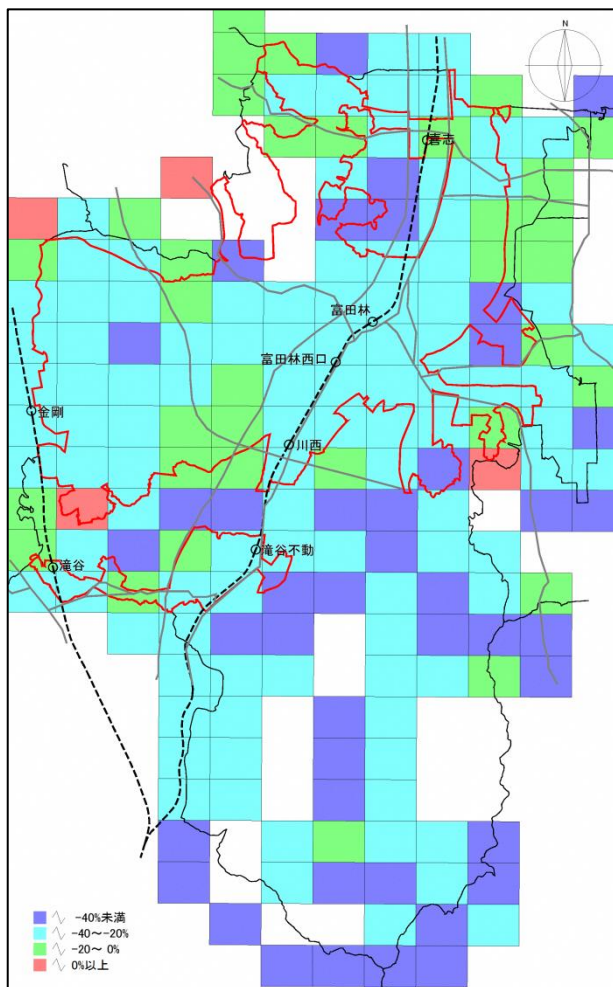
資料：2015年までは国勢調査、2020年以降は富田林市人口ビジョン

(2) 地区別人口の将来見通し

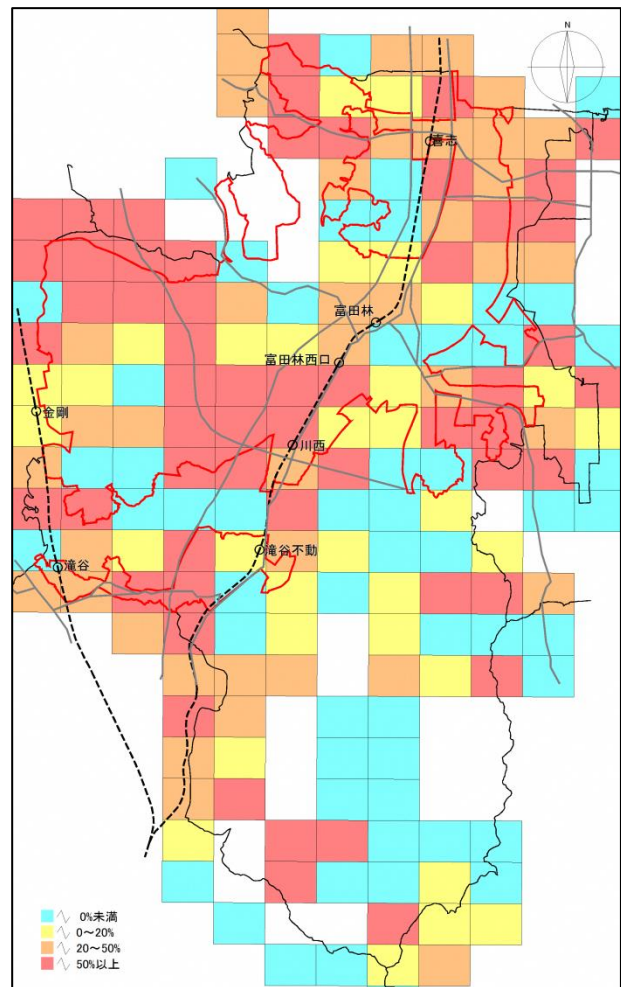
- 500m メッシュ単位での将来人口*を見ると、総人口は市内のほとんどの地区で 20% 以上の減少となることが予測されています。市街化調整区域では 40%以上減少する地区も見られます。
- 65 歳以上の高齢者は市街化区域内のほとんどの地区で大きく増加することが見込まれます。特に、金剛や金剛東、東部地域では高齢者が 50%以上増加する地区が見られます。
- 反面、市街化調整区域では高齢者も減少する地区が目立ちます。

※国土交通省国土政策局が平成 29 年 10 月に、2010 年の国勢調査に基づき、500m メッシュ単位を基本とした 2050 年までのメッシュ 別将来人口の試算を行っている。

総人口の増減率 (2010→2040)



老年人口の増減率 (2010→2040)

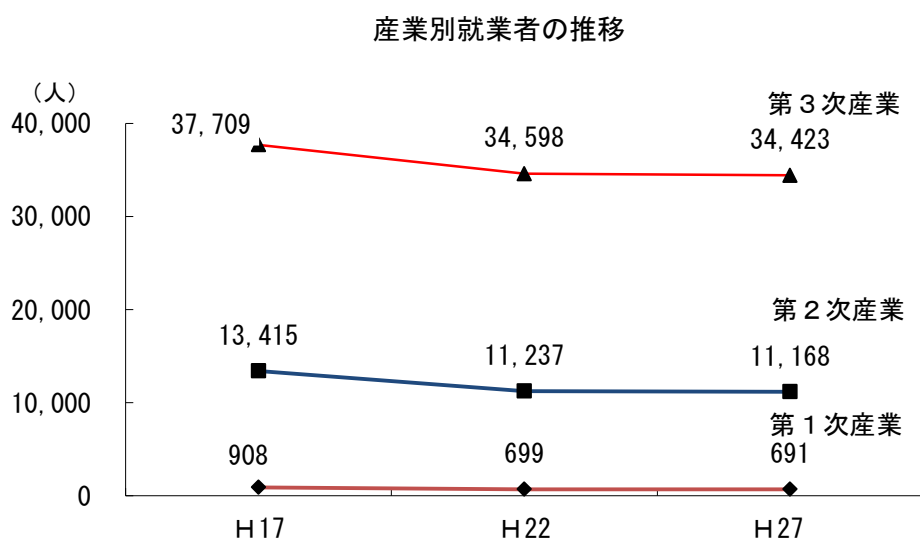


資料：国土交通省 (2010 年の国勢調査に基づき、500m メッシュ単位を基本とした将来人口の試算)

2. 産業

1) 産業別就業者

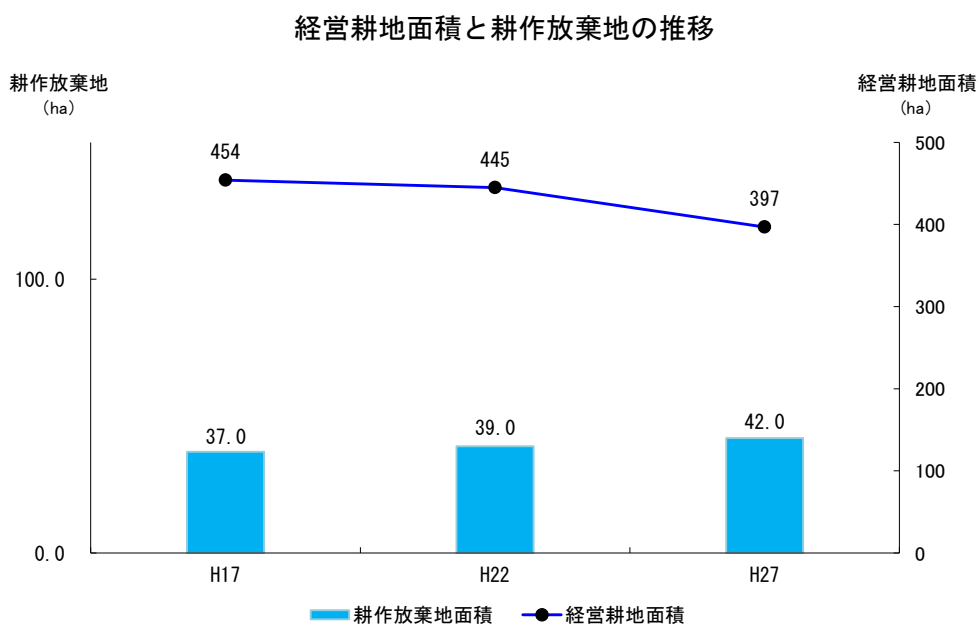
- 本市の産業別就業者数の状況は下図の通りで、第3次産業就業者が最も多くなっていますが、各産業ともに就業者数は減少傾向にあります。



注：分類不能を除く
資料：国勢調査（総務省）

2) 農業

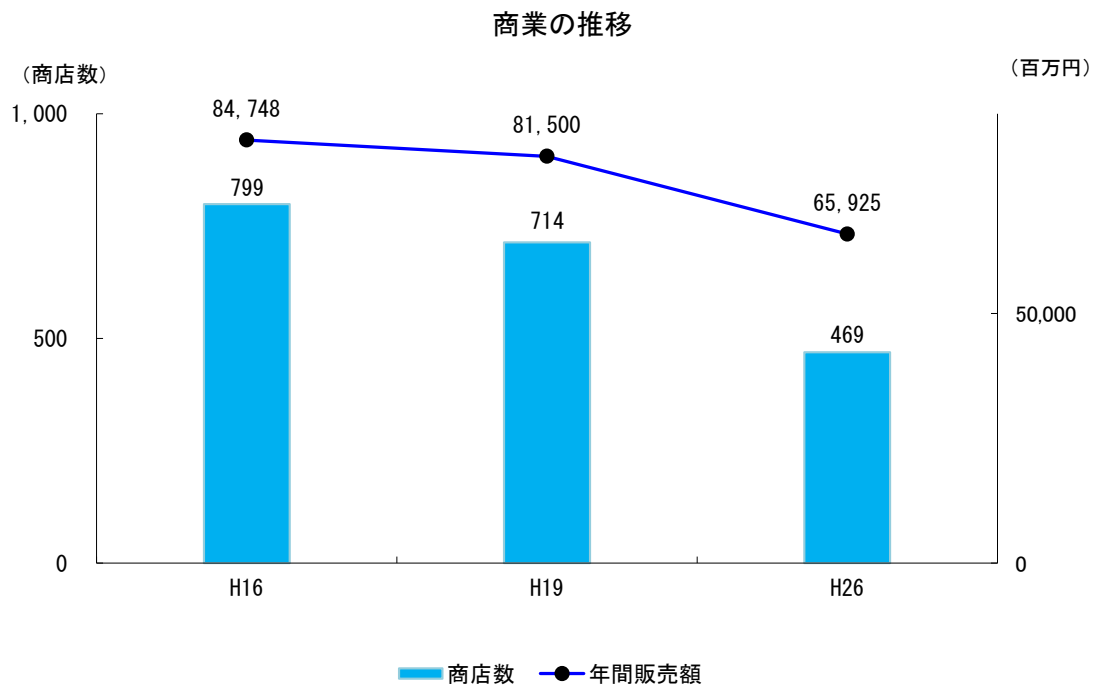
- 本市の農業の状況は下図の通りで、経営耕地面積は減少を続けています。それにとともに、耕作放棄地面積は増加し続けています。



資料：農林業センサス（農林水産省）

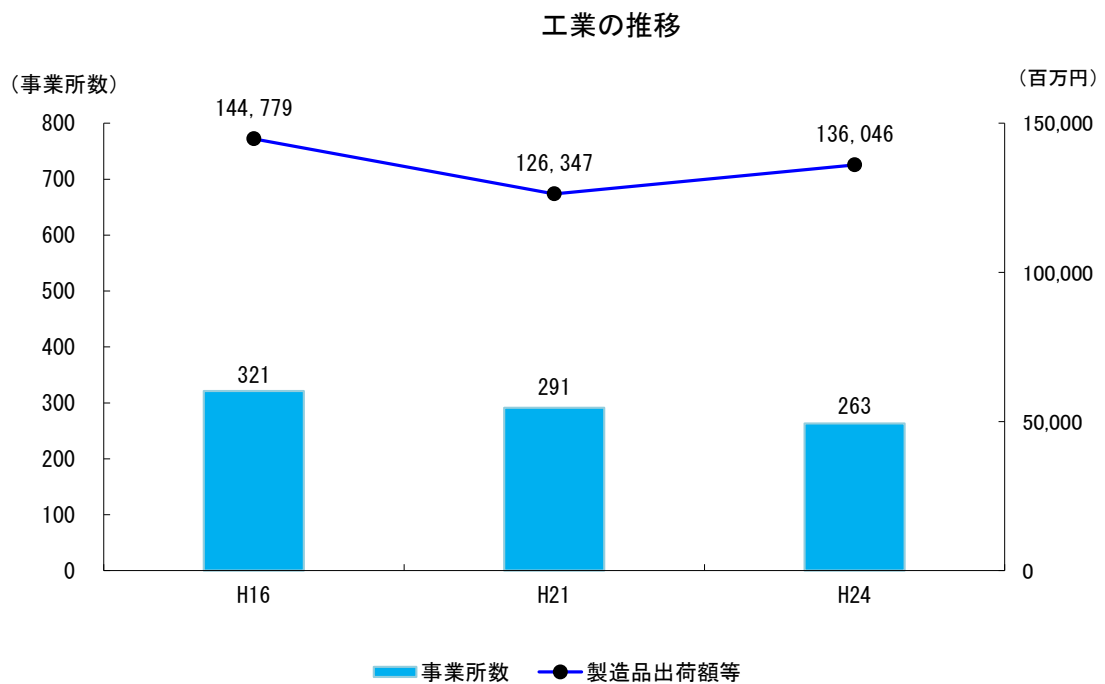
2) 商業

- 本市の商業の状況は下図の通りで、商店数、年間販売額ともに減少を続けています。



3) 工業

- 本市の工業の状況は下図の通りで、製造品出荷額等は横ばいで、事業所数は減少傾向にあります。

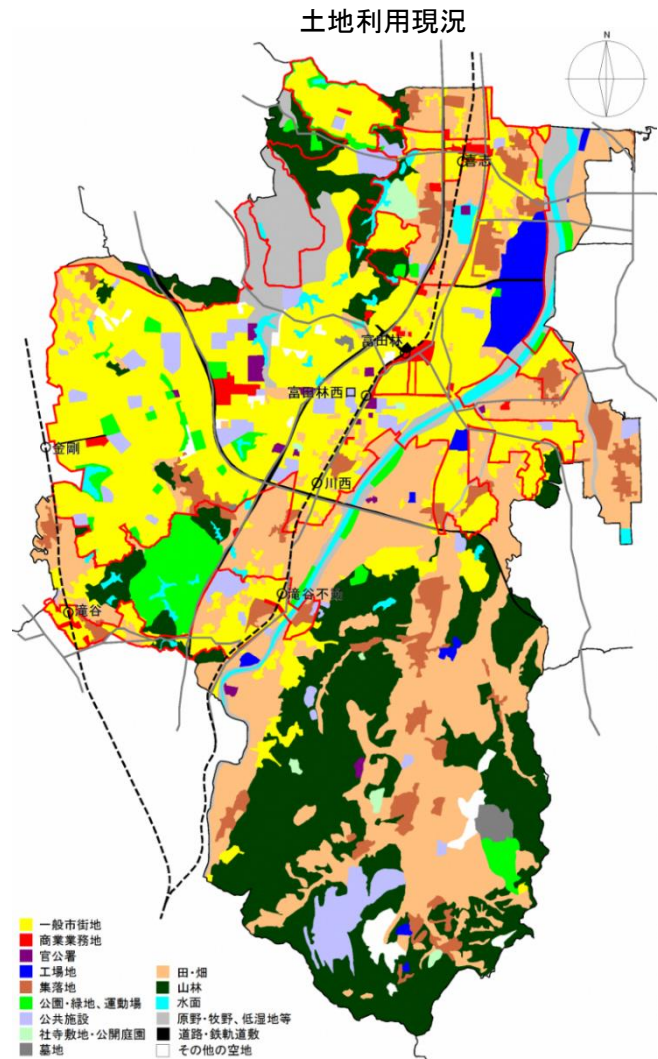
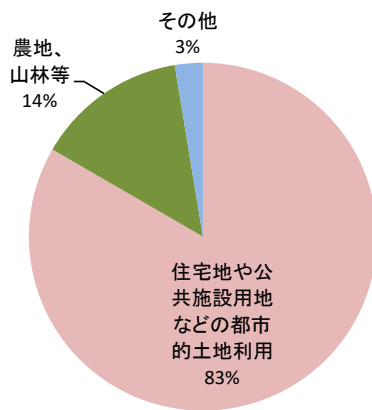


3. 土地利用

1) 土地利用現況

- 本市の土地利用現況は右図の通りで、市全体の約 40%が市街化区域に指定されています。
- 市街化区域内の土地利用は、一般市街地や商業業務地、工業地、公共施設用地等の都市的土地利用の割合が 83%で、農地や山林等の未利用地は 14%となっています。

市街化区域内の土地利用

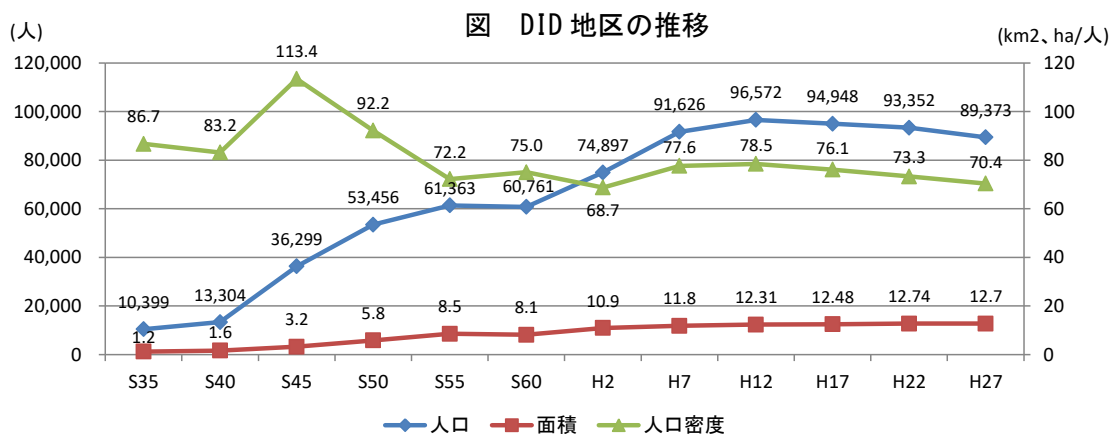


資料：都市計画基礎調査（大阪府）

2) 市街地の進行状況

- 人口集中地区（DID 地区）※は、昭和 35 年時点では富田林駅や富田林西口駅周辺のみでしたが、20 年後の昭和 55 年には北部や東部、金剛方面に広く拡大しており、その面積は、昭和 35 年から平成 27 年にかけて 10.6 倍に拡大しています。
- 人口集中地区（DID 地区）の人口は、昭和 40 年代に大きく増加し、平成 12 年以降は減少傾向にあります。

※人口密度が 4,000 人/km² 以上の基本単位区が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区に設定される。



資料：国勢調査（総務省）

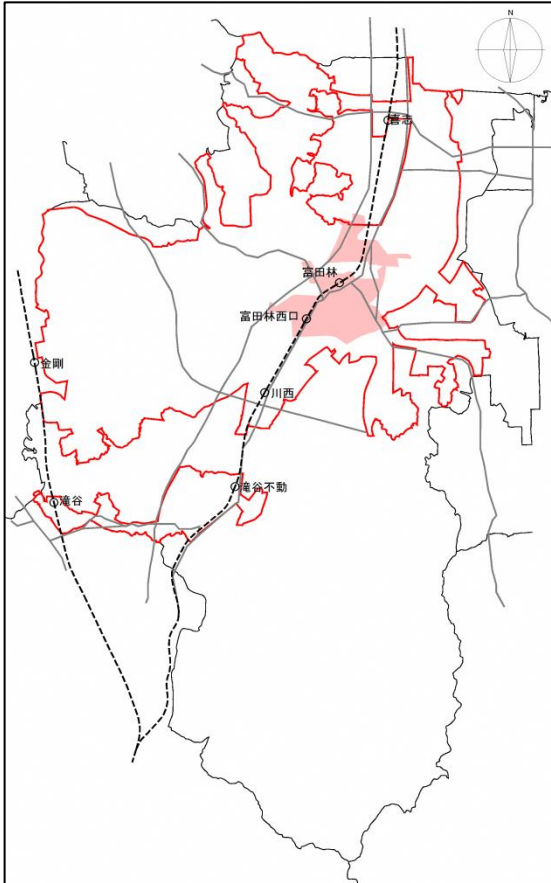


図 DID 区域 (S35)

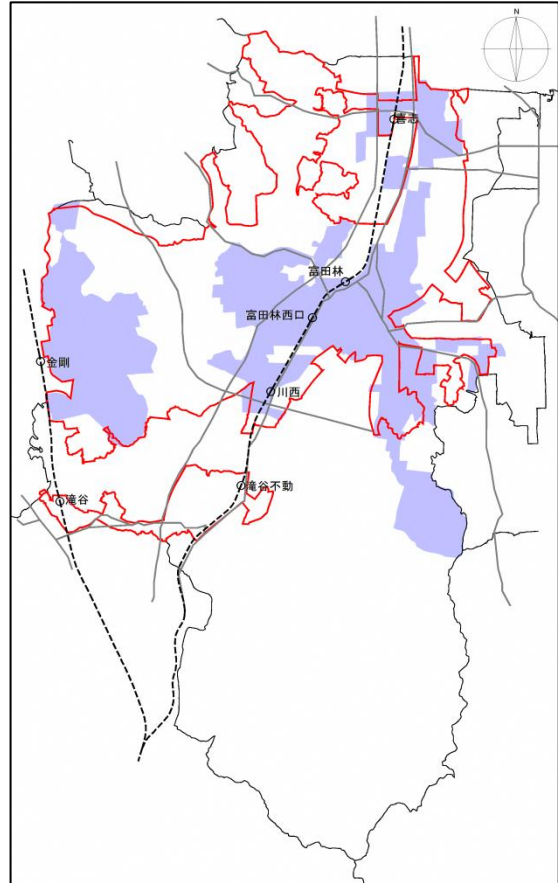


図 DID 区域 (S55)

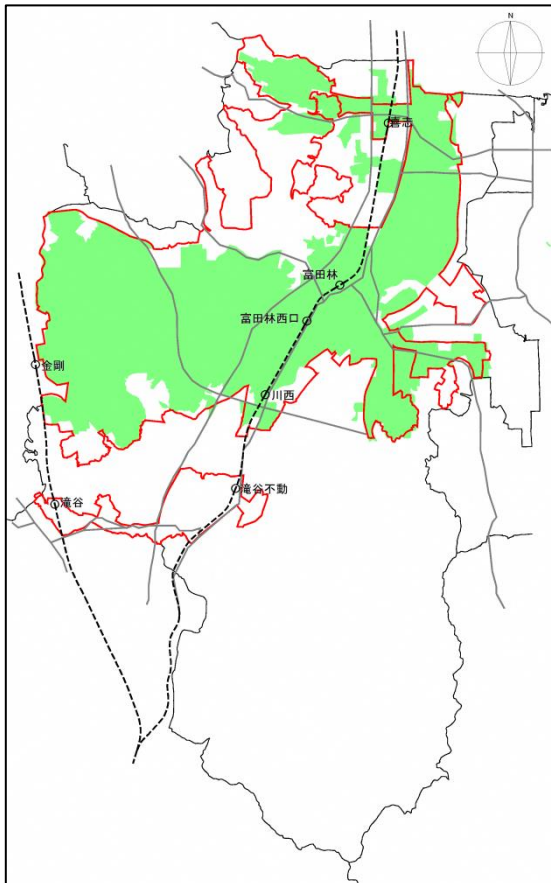


図 DID 区域 (H12)

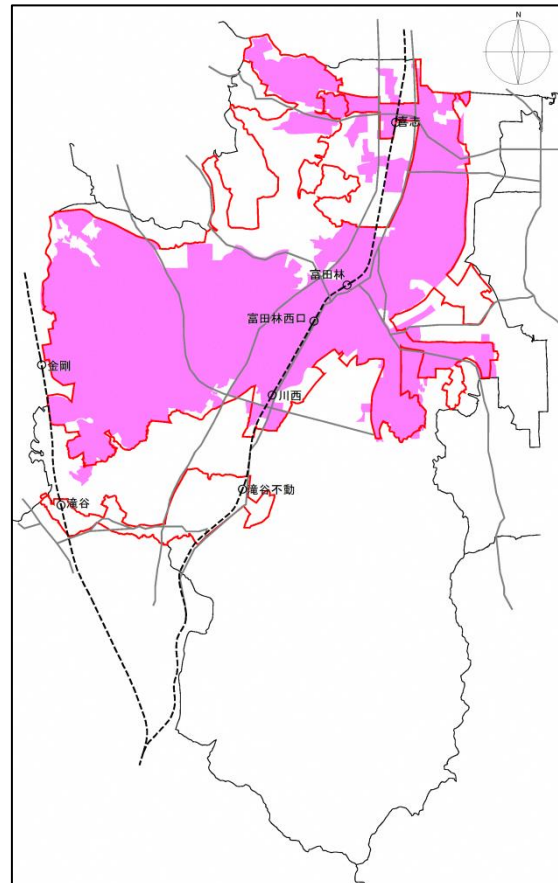


図 DID 区域 (H27)

資料：国勢調査（総務省）

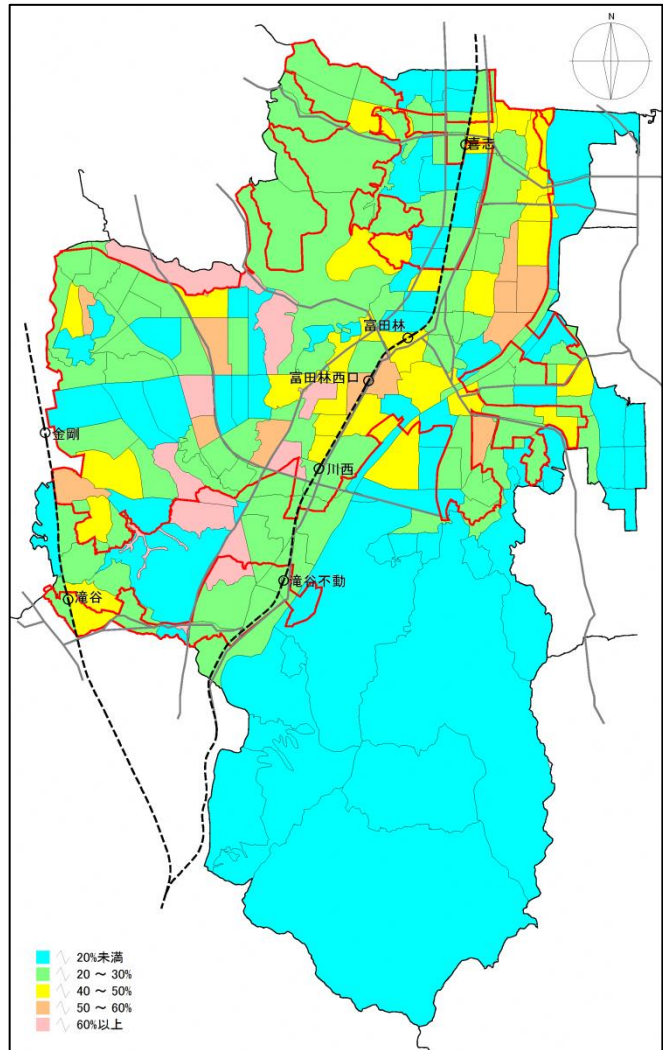
3) 市街地特性

- 町丁目別の建ぺい率を見ると、富田林西口駅周辺の商業地や、若松町東の工業地等、また金剛東地区の一部住宅地においても、比較的建ぺい率が高い地域があることがわかります。

4) 空き家の状況

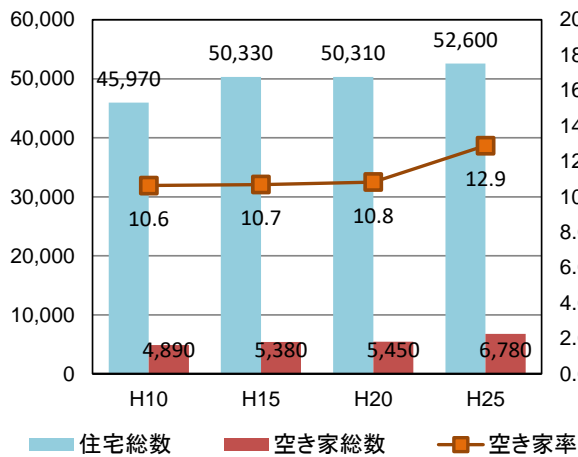
- 本市の空き家の動向を見ると、住宅総数、空き家数、空き家率のいずれもが増加傾向にあります。
- 空き家率を全国、府平均と比較すると、本市は若干低い値で推移していることがわかります。

町丁目別建ぺい率

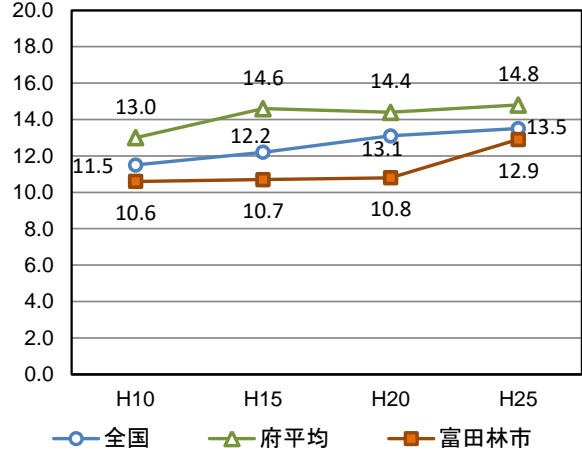


資料：都市計画基礎調査（大阪府）

(戸) 市内の空き家の推移



(%) 空き家率の推移比較



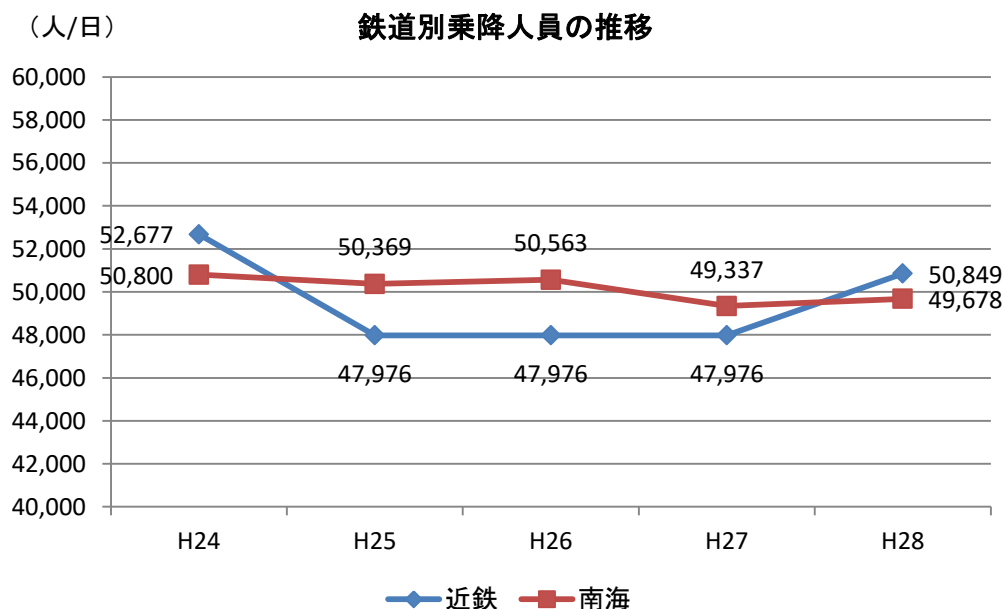
資料：住宅・土地統計調査（総務省）

4. 都市施設

1) 交通

(1) 鉄道

- 市内には、近鉄長野線と南海高野線が走っており、駅が6つ設置されています。
- 一日あたりの乗降人員の推移を見ると、近鉄、南海ともに4年前に比べて減少しています。
- 駅別に見ると、金剛駅の利用者数が突出して多く、次いで喜志駅、富田林駅となっています。
- 市内の主要駅である富田林駅は、平成24年から28年にかけて、約1割利用者が減少しています。



駅別乗降人員の推移 (人/日)

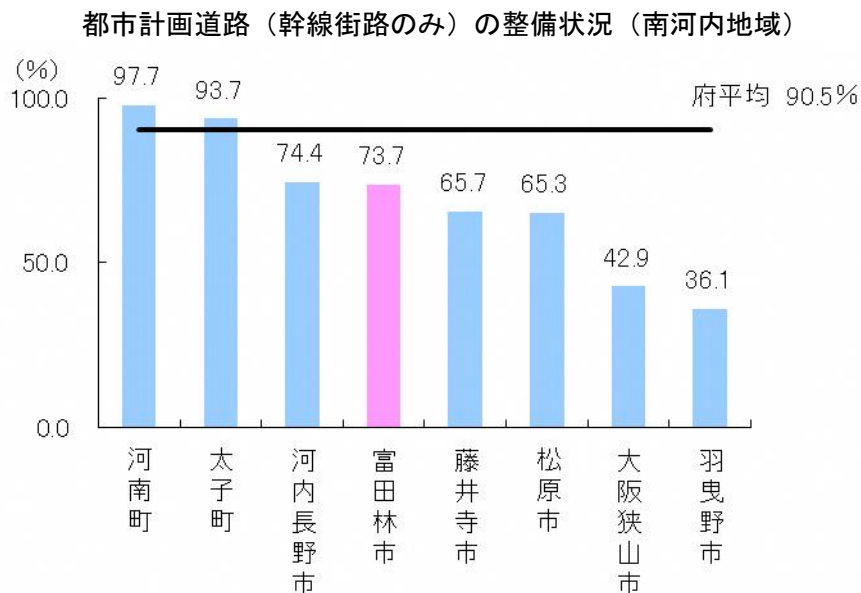
駅名	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H24
喜志	18,072	18,128			17,612	0.97
富田林	15,229	14,459			13,768	0.90
富田林西口	6,135	6,006			6,557	1.07
川西	3,634	3,631			3,760	1.03
滝谷不動	7,204	3,318			6,600	0.92
汐ノ宮	2,403	2,434			2,552	1.06
大阪狭山市	8,934	8,919	9,043	9,017	9,204	1.03
金剛	36,287	35,874	35,971	34,905	34,994	0.96
滝谷	5,579	5,576	5,549	5,415	5,480	0.98

注：市内及び市に隣接している駅の乗降人員。空欄については、未実施。

資料：大阪府統計年鑑

(2) 道路

- 市内の都市計画道路（幹線街路のみ）の整備状況は73.7%となっており、府平均に比べて低いレベルとなっています。

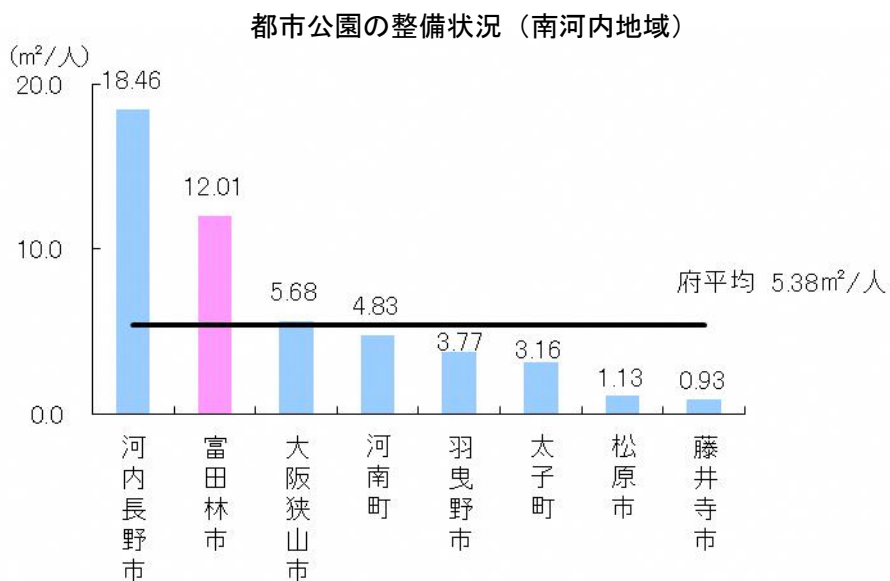


注：千早赤坂村は都市計画道路未指定

資料：都市計画現況調査（国土交通省）平成27年3月末現在

2) 公園・緑地

- 市内の都市公園の整備状況（市民一人当たりの公園面積）は12.01 m²/人となっており、府平均を大きく上回るレベルとなっています。

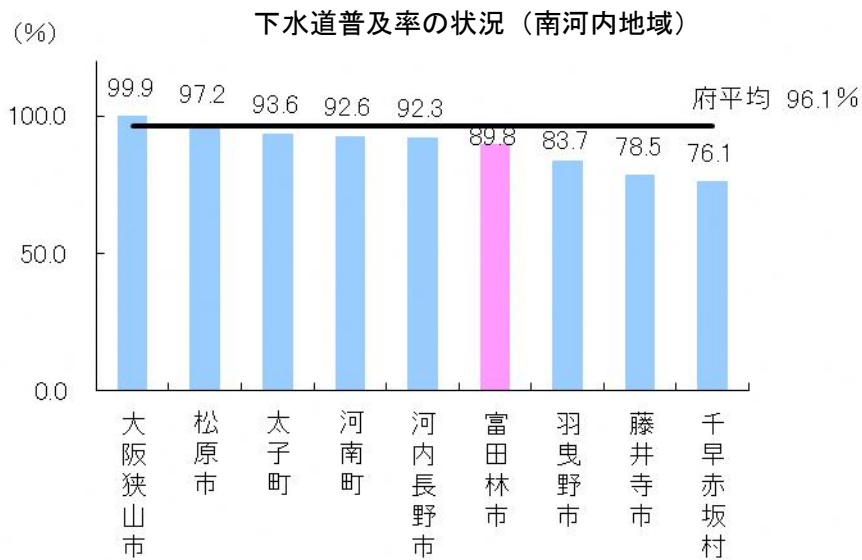


注：千早赤坂村は都市計画公園未指定

資料：大阪府都市公園一覧表（大阪府都市整備部都市計画室公園課）平成27年3月末現在

3) 下水道

- 市内の下水道普及率の状況は 89.8%となっており、府平均に比べて低いレベルとなっています。



資料：大阪府都市整備部下水道室事業課平成 29 年 3 月末現在

4) 土地区画整理事業

- 市内では、「金剛」・「金剛東」・「中野若松東」の3地区で土地区画整理事業が完了しています。
- 金剛、金剛東地区においては、どちらも昭和 40 年代の高度経済成長に伴う大量の人口流入を受け入れてきましたが、近年は、人口減少、少子・高齢、施設の老朽化等、オールドタウン化に伴うさまざまな問題を抱えています。

土地区画整理事業の概要

地区名	施行者	施行面積	施行期間
金剛	独立行政法人都市再生機構	216.4ha	昭和 38～44 年度
金剛東	独立行政法人都市再生機構	230.8ha	昭和 43～62 年度
中野若松東	富田林市	62.3ha	昭和 41～48 年度

II まちづくりの課題（案）

まちの現況と動向や市民意向等をふまえたまちづくりの課題は以下のとおりです。

【現行計画の課題（平成26年3月中間改定）】

- ①土地利用形成からみた課題
 - ・住宅地開発と自然環境、農業環境との調和
 - ・市街化調整区域における土地利用計画の検討
 - ・ニュータウンの活性化
- ②交通体系からみた課題
 - ・幹線道路網の整備・改善
 - ・生活道路の整備・改善
 - ・交通等バリアフリーに対する配慮
 - ・公共交通の活性化
- ③その他都市施設整備からみた課題
 - ・既存市街地における都市施設の整備推進
- ④都市環境形成からみた課題
 - ・富田林らしい景観形成
 - ・防災まちづくりの推進
 - ・人や環境に配慮したまちづくりの検討
- ⑤自然的環境からみた課題
 - ・自然環境や歴史環境、景観の阻害
 - ・自然環境の保全とレクリエーション的利用の調和
 - ・農村環境の保全と活用

【国・府の動き】

- ・平成26年「まち・ひと・しごと創生法」の制定
- ・平成27年に「都市再生特別措置法」の一部改正（立地適正化計画制度の創設）
- ・平成28年3月「南部大阪都市計画区域マスタープラン」の一部改定
- ・平成27年4月「都市農業振興基本法」の制定

【市の動き】

- ・平成28年3月「富田林市人口ビジョン」「富田林市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
- ・平成28年3月「富田林市公共施設等総合管理計画」を策定 など
- ・平成29年3月「富田林市総合ビジョン」を策定

【社会情勢など】

- ・平成26年8月豪雨による広島市土砂災害
- ・平成28年4月熊本地震や、集中豪雨や台風などの異常気象
- ・平成27年国勢調査開始以後初の人口減少（人口減少、少子・高齢化の加速化）
- ・オールドニュータウン問題の顕在化
- ・空き家・空き地等の増加
- ・地方経済の低迷や、駅前周辺の空洞化問題など
- ・協働の担い手不足

【市民意向の把握（平成29年11月）】

- ・「歴史的まちなみの景観」、「山並みや河川などの自然の景観」の評価が高い
- ・「段差の解消」の不満度が高い（若い世代はバス交通、公園など）
- ・まちの将来像は「買い物に便利なまち」「子育てしやすいまち」「閑静で落ち着いた雰囲気のまち」「交通ネットワークが整ったまち」が多い
- ・「都市機能や生活拠点の集約化」の意向が多い
- ・「鉄道駅周辺では、「店舗やコンビニなどの商業施設」の意向が多い
- ・「水害や土砂災害などへの対策」や「耐震化」、「避難場所の確保」などが多い
- ・優先的な取組は「交通施設」（「身近に利用する生活道路の整備」、「交通安全を重視した歩道や通学路の整備」 など

【改定計画の課題（案）平成31年3月策定予定】

まちの現況と動向や市民意向等をふまえ、以下の9つの課題を整理する。

- ① 都市機能や居住の誘導
- ② 交通ネットワークの充実
- ③ 産業機能の増進
- ④ 住み続けたい住環境形成
- ⑤ 移動しやすいまちづくり
- ⑥ 災害等に強いまちづくり
- ⑦ みどりの保全と活用
- ⑧ 地域景観の保全と活用
- ⑨ 都市環境の保全と向上



【都市整備の方針（案）】

課題解決に向けて、以下の8つの方針を軸に検討を進める。

- ◇ 交通施設の方針
- ◇ 公園・緑地の方針
- ◇ 上下水道・河川の方針
- ◇ 景観形成の方針
- ◇ 防災・防犯の方針
- ◇ 市街地整備の方針
- ◇ 住宅地整備の方針
- ◇ 自然環境整備の方針